

レビー小体型認知症って どんな病気？

レビー小体型認知症は
どんな病気？



なぜレビー小体型認知症に
なるの？



レビー小体型認知症は
どのように診断するの？



レビー小体型認知症
が疑われる場合は、
かかりつけの先生や
物忘れ外来担当の
先生にご相談下さい。



医療機関名


提供：日本メジフィジックス株式会社
URL <https://www.nmp.co.jp/>

2021.3月作成

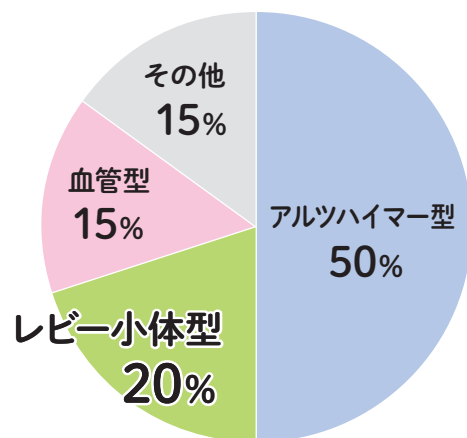
監修：神奈川歯科大学附属病院
認知症・高齢者総合内科

眞鍋 雄太

レビー小体型認知症は どんな病気？

三大認知症の1つといわれています。

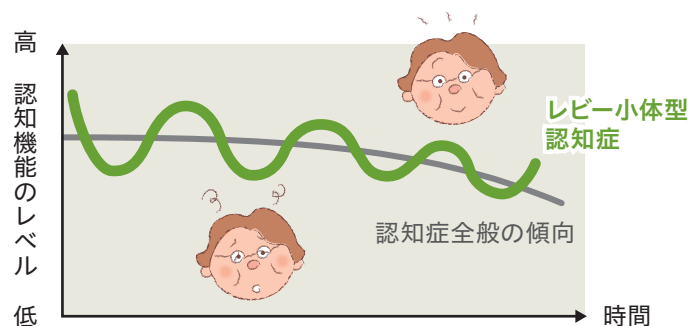
レビー小体型認知症はアルツハイマー型認知症に次いで2番目に多い認知症で、血管性認知症とともに「三大認知症」といわれています。認知症とひとくりにされがちですが、それぞれ原因は異なり、症状の特徴や進行の仕方にも違いがあります。



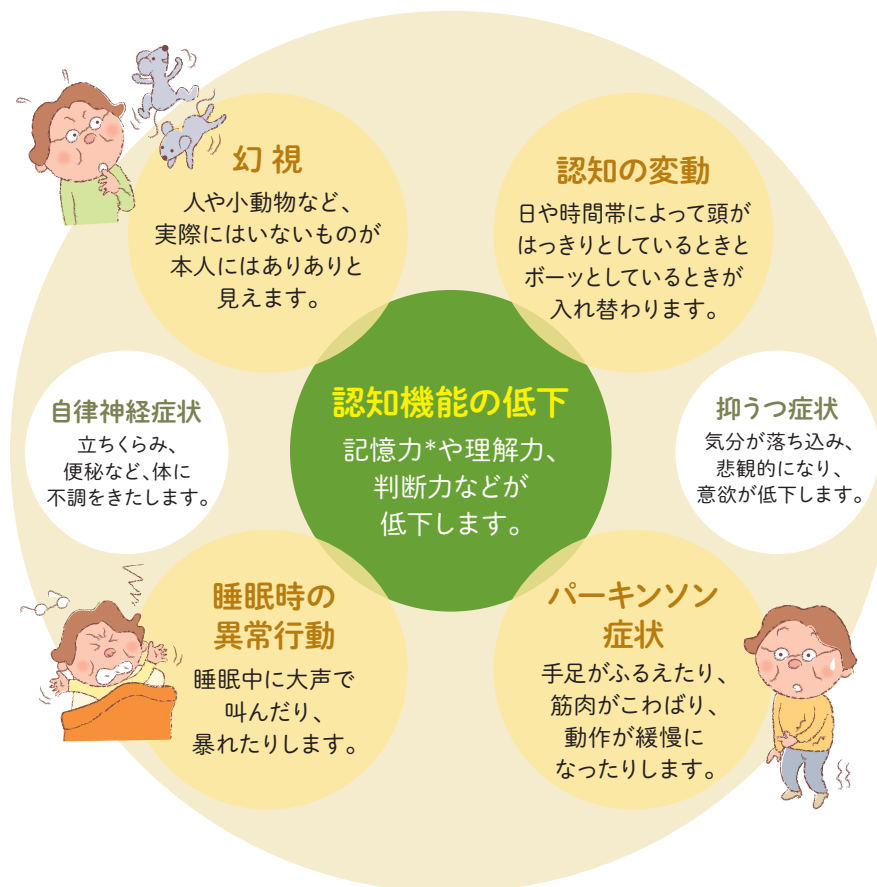
レビー小体型認知症サポートネットワーク http://dlbsn.org/what_dlb.htmlより引用

見逃されやすい、レビー小体型認知症

一般的な認知症は記憶力や理解力などの認知機能が徐々に低下していきませんが、レビー小体型認知症は認知機能が良いときと悪いときが波のように変化します。しっかりしているときもあるため「病気」と思われないことがあります。また、初期では認知機能の低下が目立たない場合もあります。



幻視や認知の変動、睡眠時の異常行動、パーキンソン症状などが特徴的です。



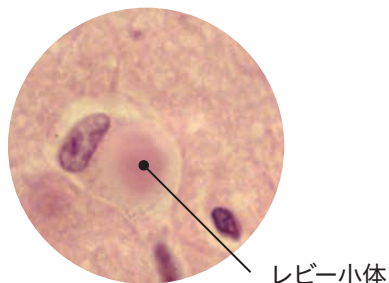
*:アルツハイマー病理の蓄積量が多い場合

レビー小体型認知症では、さまざまな症状がみられます。症状のあらわれ方にも個人差があるため、パーキンソン病やうつ病、アルツハイマー型認知症など他の病気と思われやすく、症状だけでは判断が難しい病気です。

なぜレビー小体型認知症になるの？

脳に「レビー小体」というかたまりができ、認知症になります。

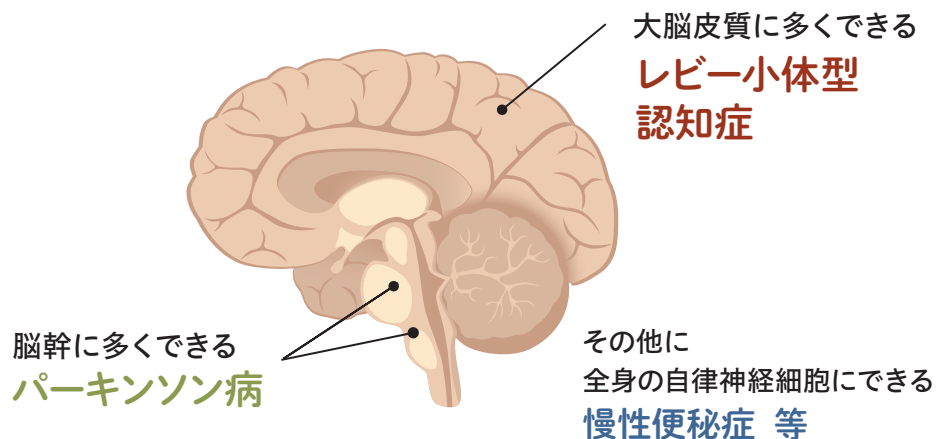
脳の神経細胞に「レビー小体」というたんぱく質のかたまりができます。レビー小体が神経細胞を傷つけ壊してしまうので、結果として認知症になります。



症例提供：横浜市立大学名誉教授 小阪 憲司先生

「レビー小体」は全身の神経細胞にできるため
レビー小体病という全身病と考えられます。

レビー小体は脳だけでなく、全身に張り巡らされた神経にもできます。どこの部位に多くできるかによって症状が異なるため、別の病気と思われやすいのですが、「レビー小体病」として総称されています。

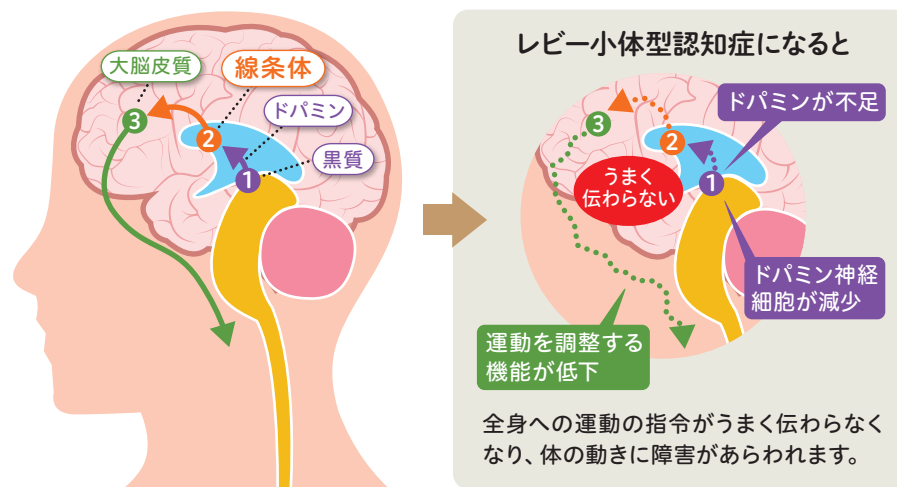


また、ドパミン神経の減少によって体の動きに障害があらわれます。

レビー小体型認知症では脳のドパミン神経細胞が壊れます。ドパミン神経細胞は脳が全身の筋肉に運動の命令を出すのに必要な神経伝達物質ドパミンを作る神経細胞です。そのため、ドパミン神経細胞が壊れるとドパミン量が減って体がうまく動かせなくなります。

体を動かすときの脳の働き

- 1 黒質のドパミン神経でつくられたドパミンが線条体に送られます。
- 2 線条体から大脳皮質に運動を調整する指令が出されます。
- 3 指令を受けた大脳皮質から、全身に運動の指令が伝えられます。



レビー小体型認知症は どのように診断するの？

問診、神経学的診察、血液検査、画像検査を行い、診断します。

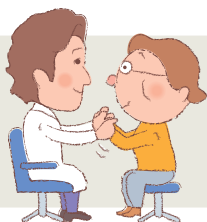
まず医師が家族やご本人に症状や困ったことなどについて話をよく聞きます。その上で診察、必要な検査を行い、検査結果を合わせて判断します。

①問診(ご本人・家族等)



②神経学的診察

運動症状および認知機能異常の有無を確認するために行われます。



③血液検査

認知症と似た症状がみられる病気を除外するために行われます。



④画像検査

1. MRIまたはCT

脳の形をみる検査で、治療可能な認知症の除外や認知症の種類を診断する手掛かりを得るために行われます。

2. SPECT(スペクト)

脳の動き(機能)をみる検査で、レビー小体型認知症とその他の認知症を区別するために行われます。



レビー小体型認知症をより早期に診断できれば、患者様の状態の維持・向上に役立ちます。

他の病気と間違われやすいレビー小体型認知症は、少量でも脳の神経細胞に作用する薬に過敏に反応し、かつ失神・転倒の頻度が高いため、治療・介護の面で細心の注意が必要です。

より早期から必要な検査を行うことにより、本人の状態の維持・向上に役立ちます。

介護の仕方や注意点が違うため
認知症の種類を確認することが大切です。

認知症は原因となる病気の種類によって症状の特徴や進行には違いがあるので、治療や症状に対する介護の仕方や生活の注意点なども違ってきます。レビー小体型認知症と診断がつけば、それぞれの症状に対する薬を用いて症状を緩和し、病気の進行を抑える治療が行えます。また、適切な介護で、ご本人の生活の質を高めることにつながります。

